市長のつぶやき No.33

環境大臣が匝瑳市を訪問

春が訪れる直前の3月上旬から中旬までの期間を表すものに「啓蟄」という言葉があります。初めて聞いたという人もいらっしゃるかもしれませんが、啓蟄とは、二十四節気のひとつで冬ごもりしていた虫たちが土の中から出てくる頃を指し、春の気配を感じた虫たちが活動を開始する時期を表しているそうです。冬ごもりが続いていた先月までは10年に一度の強烈な寒波の影響で、各地で大雪や厳しい寒さを伝えるニュースを目にする機会が多くありました。雪があまり降らない本市ではそういう話題も少なく、このことが逆に暮らしやすい土地柄だと改めて感じます。寒さも和らぎ、もうすぐ春。皆さんも春の便りを探しに外へ出かけてみませんか。

環境省の「脱炭素先行地域」に選定されている本市の取り組みを視察するため、浅尾慶一郎環境大臣が1月17日に本市を訪れ、豊和地区・飯塚開畑の営農型ソーラーシェアリング設備などを見学されました。現地で脱炭素先行地域計画の取り組みや次世代型太陽光発電設備であるフィルム型ペロブスカイト太陽電池、畑で行われている営農型ソーラーシェアリングについて、説明を受けた浅尾大臣からは「太陽光発電の売電で収入を補填し、安心して農業に従事できる先進的な取り組みだ」とのお話をいただきました。

脱炭素先行地域の実現は大変重要で意義深く、また困難なものでもありますが、それ自体が目的ではなく、脱炭素先行地域を実現することで地域課題を解決し匝瑳市を持続可能な地域にしていくことこそが目的であり、本市の生き残りの1つの手段だと考えています。エネルギーの自給自足を行い、資金・人材の地域内での循環を生み出すとともに、私たちの生活の根源である食、つまり農業を持続可能にしていくことで、人口減少の時代にあっても「匝瑳市を住み続けられる地域にしていくこと」これを実現したいと考えています。市を挙げての脱炭素化の取り組みはまだ始まったばかりです。この大きな目的の達成には市民の皆さんの力が必要です。今後ともご理解ご協力のほどよろしくお願いします。

今月は年度末に加え、確定申告に千葉県知事選挙と庁内は何かとバタバタしておりますが、引き続き「市民の皆さんの役に立つ所」として役割を果たすよう職員一丸となって取り組んでまいります。

匝瑳市長　宮内康幸

匝瑳探訪 No.226

若者講中

―飯倉を歩く

江戸時代から昭和にかけて農業が主だった市内の各集落（江戸時代の村、現在の大字）の人たちは、子どもから高齢者に至るまで、何らかの講中（集団）に参加していました。例えば小・中学生は「天神講」、成人男性なら「庚申講」や「題目講」、女性では「子安講」、「大師講」、「念仏講」などです。

近年、そうした講中も時代とともに急速に消滅している現状にあり、各講中を知る手がかりは石造物の造立者名などに限られます。

飯倉地区の県道45号線と49号線の交差点近くの道路脇に「庚申塔」があり、これには「飯倉村台谷若者講中」と刻まれています。市内で確認されている「講中」による石造物約400基のうち「若者」が造立したものは、この塔を含め7基ほどで珍しいと言えます。

この「若者組」は江戸時代から村ごとに存在したとみられるものの、文書や記録などはまったくといっていいほど残されていません。時代により変化したと考えられますが一般的には男子が一定の年齢になると加入したとされます。その役割は村内の警備や道路修繕、消火活動などの作業を行ったり、親睦を図るためだったとされます。

飯倉の庚申塔は大樹のもとに、1800（寛政12・庚申）年正月7日に造立された高さ175㎝ほどの大きなもので右側面に「台谷若者講中」、左側面に「郷中安穏」、台石部分は裏面を除く3面に地名が刻まれ道標の役割も果たしています。

飯倉には千手院入り口付近に1716（享保元）年に「飯倉村全体」で造立した庚申塔があります。また時代が下るにつれ、男女の講中とも「池端谷中」、「中貫谷中」、「新田講中」など「くるわ（郭）」と呼ばれる小集落ごとに造塔されていったことが知られます。

（市文化財審議会委員・依知川雅一）

飯倉の庚申塔

問秘書課広報広聴班 ☎73・0080

文芸コーナー

力作募集中

宛先…匝瑳市秘書課広報広聴班
〒289−2198 匝瑳市八日市場ハ793番地2
☎73・0080 FAX72・1114

短歌

依知川 雅一 推薦

冬晴れの厳しき寒気ふとん干し
夜に湯たんぽ今も変わらず　髙橋百合子

清少納言が「星はすばる」とたたえたる
冬の星座は鋭く冴える　宇野とし子

新玉の夕空にかかりし大虹に
孫の笑顔や今年の幸せ　伊橋 勝利

米作り期待ふくらむ増産に
励む心を明るく照らす　宮内 ゆき

あけぼのに天水桶に指を入れ
外気を計りし氷の有無にて　大木 洋一

庭先の日本水仙香り良き
白と黄色に楚々と咲きをり　鈴木 知子

雨の音遠いむかしの夢を見る
世界のいくさ始まり多し　桑原 宏子

石田 健治 推薦

二人連れペットボトルをぶら提げて
飛沫舞ひ散る突堤の先　伊橋 良子

続け来し農薬使はぬ稲作り
我老いたればこれ限りとす　伊藤徳太郎

俳句

椿 和枝 推薦

ジャムの蓋ポンと弾けて山笑ふ　佐々木之子
鋤き返す十坪の畑春日かな　那須 恒雄
追ふ鴨に待つ鴨のゐて池の朝　椎名 晴江
白湯うまきコーヒー茶碗日脚伸ぶ　吉井 八流
起し田の土黒々と冴え返る　山崎智恵子
追儺いざヘルパーさんの赤鬼へ　光瀬甲江子
こんな字も忘れてゐたり山笑ふ　岩井 やす

石田 健治 推薦

野手浜や幸せ祈る初日の出　野仲 妙子
夜更け床汽笛の声と海鳴りと　春日 政彦

川柳

勝又 康之 推薦

桃の花準備体操春を待つ　林 長三郎
孫見舞うケロリ直った桃二つ　岡田けい子
桃ほっぺキスしてみたい三歳児　鵜澤 澄子
ひとり聞く桃色吐息昼下がり　鶴野千恵子
桃の花ほんのり恥じて春を呼ぶ　伊橋 裕子

◆公民館まつり川柳大賞受賞作　お題「梅」

梅干しと今の私は瓜二つ　岡田けい子

石田 健治 推薦

あれこれも健康器具が欲しくなり　須貝 玉泉
姿見をながめて悔やむ下っ腹　野仲てつ幹
お年玉格差付けるか孫三人　熱田 和

＼地域おこし協力隊員の／

キラッとふるさと通信 No.07

本市の新たな魅力を発掘する地域おこし協力隊員・北條将徳さんが、活動を通じて発見した「匝瑳の輝き」を紹介します。

めぐり栄える、循環のまちの兆し

春に手が触れそうなこの時期、希望に胸弾む人も多いのではないでしょうか。10月に任期を満了する私も、多くの希望の芽を感じる昨今です。今回は、そんな希望の一部をご紹介します。

キッチンカーで移動式食堂として街を巡り、子どもからご高齢の人まで、すべての人に地域の食材を使った温かい食事を手頃に提供する企画「だれでも食堂プロジェクト」を始めました。２月23日には、飯高地区でお試しイベントを実施しました。食材を提供してくれた人、ボランティアでお手伝いしてくれた人などたくさんの人の力のお陰で、この活動を始められたことに感謝します。

移住してからの２年４カ月でさまざまな声を伺いました。「何もないこの街にどうして」との問いに今は明確に返すことができます。「何もないかもしれないけれど、街を想い、できることで貢献する人がたくさんいます」と。

匝瑳市の魅力が詰まったカレーを提供

この街の人の力を借りつつ、空き家や中古品の利活用、小商いの立ち上げを進め、皆でまちづくりを進めていく。その先に、誇りを持てる「人やモノがめぐり、循環するまち」の未来があると確信しています。